

企業として心がけたいこと

昨年の暮れ、大分市内の歩道を歩いていた知人が、あるお店の看板に額をぶつけて切り、病院で治療を受けました。

その看板は、顔の高さで歩道に突き出ているのです。また、点字ブロックの近くぎりぎりまで置かれた大きな看板を見たことがあります。視覚障がいのある方がぶつかりはしないかと心配になります。道路上に許可なく物を置くことはできませんし、広告物設置についてのルールは厳守しなければなりません。

それに、企業の広告一つとっても、法令順守は当然のことながら、それ以上に、障がい者、高齢者、子ども、外国人など様々な方々にとって、危険でないか、不快に感じないかなども心を配って掲示することが、社会への貢献につながるという視点を持つことが大切なのではないのでしょうか。

企業は、商品やサービスなどを提供し、社会に不可欠な存在ですが、ともすれば利益の追求だけに目が向けられがちです。しかし、社会の一員として果たすべき責任も問われています。

その責任とは、産地偽装やリコール隠しを行わないといった法令順守はもちろんのこと、それ以上に広い意味で社会に利益を還元することであり、自然環境を守り持続可能な社会を目指すこと、必要な情報を開示すること、消費者や従業員の人権を守ることなどです。

社会的責任を果たすことは、企業への信頼を高め、競争力を向上させるとも言われます。

企業で働くみなさん、社会的責任を果たすことは、企業自身にも、社会全体にもプラスになることです。もう一度、見つめ直してみてもいいのではないでしょうか。

大分県人権啓発コラム「心ひらいて」より

安心院中央公民館

大久保 和則

令和5年度 第2回

あじむ学講座のご案内

本年度第2回あじむ学講座を下記の要領にて実施します。皆さんの参加を、お待ちしております。

記

- 期 日 令和6年2月8日(木) 10:00～
- 場 所 安心院中央公民館内 視聴覚室
- 講 師 元大分県教育委員会文化課
坂本 嘉弘 氏 (挟間町在住)
- 演 題 「宮ノ原遺跡出土した土器から見た
弥生時代の生活」

いろいろな情報をキャッチすることができません、海外では100%マスクはしていません。
日本でも、現在では約70%くらいの人がマスクを外している、言われています。
先日、近くのスーパーへ買い物に付き合った、店の駐車場で待っていた、店に出入りする、お客さんを眺めていた、ほぼ、すべての人がマスクをしていた。
この町は、用心深い人が多いなと思った。

佐田公民館だより QR コード
スマホからカラーで閲覧できます。

